

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	○災害対策 今年度2度目の消防訓練が未実施であり早急に取り組む必要あり。 また、地震想定ของ京都市一斉シェイクアウト訓練への参加や、水害対策として半地下のグループホーム居住スペースから2階デイサービスフロアへの避難訓練も今年度中に行いたい。	■訓練を経験しておくことで有事の際に落ち着いて行動できるようになる。 ■災害時の行動について優先順位を職員で確認、周知する。 ■上記をもとに、災害時の入居者と職員の安全を守る。	■2月1日の夜間想定の避難訓練を行う(通報・避難訓練)→実施済 ■3月11日に京都市一斉シェイクアウト訓練に参加し、地震の際の身の守り方、初動を訓練する。 ■2月もしくは3月に2階デイサービスフロアへの水害想定避難訓練を行う。	3ヶ月
2	3	○事業所の力を活かした地域貢献 地域の高齢者向けサロン活動に長年取り組んでいるが、参加者の状態変化を実感する。また、地域の特性として高齢者が多く生活されている。参加者だけでなく、地域の方々が「高齢になっても認知症になっても、安心して暮らせる地域づくり」に、事業所の強みを生かした次の貢献を展開したい。	■サロンの参加者が今後状態が変わっていても引き続き地域で暮らし続け、サロンを通じた社会参加ができる。 ■高齢者や認知症の方への接し方や見守り方を知識・経験として持っている地域の方たちが増える。 ■地域に住む誰もが高齢になっても認知症になっても安心して暮らせると思えるようになる。	■向かいのお店と協同して子ども向け認知症サポーター養成講座を行う(年度内に構想を相談)。 ■子ども向け認知症サポーター養成講座を経て、商店街(大人)向け認知症サポーター養成講座を向かいのお店と協同して行う。 ■学区の小学校で認知症サポーター養成講座の出前授業をさせて貰えないか、上記の講座を経て相談する。	12ヶ月
3	33	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 今年度入居者1名の看取りを行った。家族と本人の意向が明確であったことで思いに叶う最期であったと振り返る。現在、どの家族・保佐人とも看取りについてタブー視せず話そうことができているが、よりオープンに、他の家族の経験談も共有することなどできれば、より具体的に思いを叶える最期へと備えることができないか。	■具体的に、事業所のできること・できないことを知ってもらえる(現在、当事業所での看取りを希望される家族が多い)。 ■本人と家族の最期に対する意向を聴き取る(DNT含め)。 ■家族と事業所での入居者の最期に対するイメージを共有する。	■サービス担当者会議の際に看取り、急変時の意向確認を行っており、それを継続する。 ■分かりやすいDNTの書式を整備する。 ■事業所で看取りを行った入居者の家族を招き、タブーなく意見交換できる家族会を開催する。	12ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入して下さい。